

令和8年度 学校経営計画書

学校番号	62	学 校 名	静岡県立遠江総合高等学校	校 長 名	門間 秀雄
------	----	-------	--------------	-------	-------

1 スクール・ミッション

周智郡森町唯一の全日制総合学科の高校として、総合学科ならではの幅広い選択科目と系列学習、地域と協力したキャリア教育を軸とした教育活動を展開し、困難な状況でも自らそれを乗り越える力を身に付け、多様な人々と協働して将来の地元地域社会に積極的に参加し、その発展に貢献できる人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
1 「自立した、さわやかな高校生」として地域から期待され、地域社会に主体的に参画し、その発展に貢献できる生徒 2 自分の力を発揮して、人の役に立つことができる生徒 3 笑顔ですがすがしい挨拶ができ、ルール・マナーを守り、友人への思いやりをもって協働できる生徒	1 地域社会と積極的に連携し、協働する力、社会に貢献しようとする態度、主体的に課題解決に向かう力を育成する。 2 「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」を中心に、自己の進路を主体的に設計する力を育成する。 3 各系列の特色ある学習活動を通じて、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を育成する。	1 総合学科の特徴を理解し、高校入学後、将来や職業選択について真剣に向き合おうとする生徒 2 本校の系列の中で学びたい分野をもち、高校入学後、その学習を深めながら進路実現に向け意欲的に取り組む生徒 3 高校・上級学校卒業後、地域社会で活躍したいという意欲をもつ生徒

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

本校が目指す生徒像である「自立した、さわやかな高校生」を具現化するため、学校・家庭・地域が連携して、具体的な教育活動（プログラム）を体系的に展開する。

「自立した、さわやかな高校生」とは、

◎「自立」の意味するところは、「自分の力を発揮して人の役に立つこと」である。
 具体的には、卒業時における次の3つの姿（キャリア教育目標）を目指す。

- 1 困難な状況に置かれても、自ら考え、学び、行動しながらそれを乗り切ることができる。
- 2 多様な相手の考えを理解したり自分の考えを伝えたりし、多様な人々と協働していくことができる。
- 3 地域社会に積極的に参画し、その発展に貢献できる。

◎「さわやかな高校生」の条件

- 1 笑顔ですがすがしく挨拶する。
- 2 清潔で整った身なりを保つ。
- 3 社会のマナーを身に付け、ルール（規則）を守る。
- 4 感謝の気持ちを持ち、公共の物を大切に使う。
- 5 友人を思いやり、人のために行動する。

- ア 基本的な生活習慣と規範意識を定着させ、心身ともに健康で生命（いのち）を大切にできる生徒を育てる。
- イ 系列・年次・教科が連携し、「遠高16の力」を育むキャリア教育を計画的に進め、生徒の多様な進路希望の実現を支援する。
- ウ 学習習慣を定着させ、基礎学力の向上を図るとともに、どの教科でもわかりやすく、「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、授業改善と評価改善に取り組む。
- エ 新学習指導要領への移行、高大接続改革、ICT活用等の進展を踏まえ、新しい教育課程づくりを軸としたカリキュラムマネジメントを進める。
- オ 地域と連携し、本校の教育活動を積極的に発信することで、社会に開かれ、地域に愛される学校づくりを進める。
- カ 業務の効率化・改善や行事の見直しを進め、教職員の適切なワークライフバランスを確保するとともに、安全・安心な教育環境の整備に努める。

※「遠高16の力」とは…

人間関係・社会形成能力

- ① 伝える力
- ② 聴く力
- ③ 公共心
- ④ チームで働く力

自己理解・自己管理能力

- ⑤ 自己有用感
- ⑥ 自ら行動する力
- ⑦ 粘り強く行動する力
- ⑧ ストレスに対応する能力

課題対応能力

- ⑨ 課題を発見する力
- ⑩ 調べる力
- ⑪ 計画的に取り組む力
- ⑫ まとめる力

キャリアプランニング能力

- ⑬ 選択する力
- ⑭ 学びに向かう力
- ⑮ 役立とうとする意識
- ⑯ 前に踏み出す力

3 本年度の取組（重点目標は**ゴシック体**で記載）

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当
ア 基本的生活習慣と規範意識を定着させ、心身ともに健康で生命（いのち）を大切にできる生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が充実した高校生活を送り、進路を実現できるよう、全教職員が共通理解のもと、基本的な生活習慣と身だしなみを丁寧に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・爽やかな挨拶を実践できた生徒90%以上【社会性・①③⑥】 ・身だしなみを整える意識を持ち、適切な生活ができた生徒90%以上【自己管理・⑥⑩】 	生徒 全 員
		<ul style="list-style-type: none"> ・欠席、遅刻、早退者数の前年度比で減少(昨年1日平均:欠席16.4人、遅刻5.2人、早退2.1人)【生活習慣・⑥⑩】 	教 務 全 員
	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活指導や見守り、声掛けを大切にし、生徒の成長を支えながら、正しい判断ができる力（規範意識）を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のきまりや社会のルールを守って生活できた生徒90%以上【規範意識・③⑥】 	生 徒 全 員
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒手帳の活用目的を明確化し、生徒の実態に基づいた使い方を検討する。 ・自分の生活を自分で管理できるよう、SHR・集会・特別活動等で生徒手帳の活用をさらに進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒手帳を活用して、自己管理ができた生徒80%以上【自己管理・⑥⑩⑭】 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の良いところを見つけて認め、褒める関わりを続け、生徒の自信や自尊心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分には、よいところがある」と答えた生徒90%以上【自己肯定感・⑤】 ・「自分のことを大切にしようと思っている」と答えた生徒90%以上【自尊心・⑤】 ・「自分は、誰かの役に立っていると感じることもある」と答えた生徒50%以上【協働・③④⑤】 	全 員
	<ul style="list-style-type: none"> ・相談室を中心に、年次、担任をはじめ全教職員が連携して、生徒の心の健康を支える体制を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「相談できる友人や先生がいる」と答えた生徒90%以上【人間関係・①②⑧】 ・生徒相談件数を昨年度(延べ68件)より減少【心の健康・⑥⑧⑯】 	相 談 室 生 徒 各 年 次 全 員

イ	系列・年次・教科が連携し、「遠高16の力」を育むキャリア教育を計画的に進め、生徒の多様な進路希望の実現を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員がキャリア教育全体計画を把握し、キャリア教育目標達成に向けて連携・協力して推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「キャリア教育が推進されている」と答えた生徒が95%以上 【キャリア意識・⑬⑭⑯】 	総合推進 教 務
		<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育や探究学習において「遠高16の力」のどの力を育成するかを明確にし、体系的に育成を図る。 1・2年次の取組を踏まえ、3年次では進路実現に直結するSUTを編成する。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育アンケートで、「遠高16の力」⑤⑨⑩⑪⑫⑬⑮⑯が向上したと答えた生徒それぞれ75%以上 【キャリア：⑤⑬⑮⑯】 【探究：⑨⑩⑪⑫】 	総合推進 各年次 全 員
		<ul style="list-style-type: none"> 『産業社会と人間』で、系列での学びと将来のつながりを具体的にイメージさせ、外部講師や職業人講話を活用してキャリアプランニング能力を育成する。また、2年次への円滑な移行と接続を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「卒業後の進路を見据えて系列・選択科目を選ぶことができた」と答えた生徒90%以上 【キャリア意識・⑬⑭⑯】 	総合推進 各系列 1年次
		<ul style="list-style-type: none"> 進路課・推進室・年次が連携し、生徒の多様な進路希望に対応できる進路決定サポート体制を強化する。 生徒の適性理解と進路理解を深める指導を行い、進路のミスマッチを減少させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定率100%（3年次） 【進路実現・⑬⑭⑯】 希望進路決定率80%以上（2年次） 【進路形成・⑥⑬⑭】 60%以上（1年次） 【キャリア意識・⑤⑬⑯】 	進 路 総合推進 各年次
ウ	学習習慣を定着させ、基礎学力の向上を図るとともに、どの教科でもわかりやすく、「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、授業改善と評価改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望と学習習慣の関連を意識した指導を強化し、生徒自身が学びの意義を理解できるよう支援する。 テストに向けた学習支援を計画的に行い、各教科で適切な課題（宿題）を継続的に課して学習習慣の定着を図る。 スタディサプリ等のICT教材の活用場面を明確にし、利用状況を把握して必要な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「勉強していて、どこが分かっていて、どこが苦手かを自分で分かっている」と答えた生徒70%以上 【学習の質・⑩⑪⑭】 「授業や家庭学習に、自分から進んで取り組もうとしている」と答えた生徒75%以上 【主体的な学び・⑪⑭⑯】 「課題内容は自分の学力に適している」と答えた生徒70%以上 【学習意欲・⑪⑭】 「Chromebookを学習に活用できた」と答えた生徒75%以上 【ICT活用・⑩⑪⑭】 	教 務 進 路 各年次 各教科
		<ul style="list-style-type: none"> 朝読書を継続的に実施し、言語活動の意義（読む・考える・まとめる力の育成）を明確にしてその充実を図る。 朝の読み聞かせ会を継続し、生徒が読書に親しむ態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「以前よりも本に親しむことができた」と答えた生徒60%以上 【主体的な学び・②⑭】 図書室の利用者数の増加 【読書習慣・⑭⑯】 	総務図書 各年次
		<ul style="list-style-type: none"> 授業改善研修、定期訪問時の研究協議、公開授業への全員参加で学びを共有し、自身の授業に還元して授業改善を進める。 「高校生のための学びの基礎診断」（基礎力診断テスト）を活用し、生徒の学力を把握して指導の検証と改善につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期訪問時の研究授業や研究協議への参加率100% 管理職の授業参観において、全教員が「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を実践する（実施率100%） 公開授業への参加回数を、教員1人あたり平均3回以上 測定ツールで把握した学力に基づき、授業改善に取り組んだ教員80%以上 	教 務 全 員
		<ul style="list-style-type: none"> 全科目、全集団での授業アンケートの実施を継続し、その結果を授業改善に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートを年2回実施し、その結果を授業改善に活用する 	教 務 全 員
		<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びを育成するため、指導と評価の一体化を柱に、総括的評価、形成的評価、ルーブリック評価を組み合わせた評価方法を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全科目で評価方法の点検を実施し、その結果をシラバスに反映させる（実施率100%） 	

様式第1号

エ	<p>新学習指導要領への移行、高大接続改革、ICT活用の進展を踏まえ、新しい教育課程づくりを軸としたカリキュラムマネジメントを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による探究活動及びICT活用の充実に向けた研修を推進する。 ・すべての教育活動を連携・連動・協調させ、持続可能で循環する教育活動を構築し、社会に開かれた教育課程の導入を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動・ICT活用に関する校内研修を実施し、外部研修への積極的な参加を促す ・校内研修の教職員満足度70%以上 ・教育課程の点検・検討を進め、社会に開かれた教育課程の実現につなげる ・ESD(持続可能な開発のための教育)の理解を深め、その推進を図る 	<p>管理職 教務 進路 全 員</p>
オ	<p>地域と連携し、本校の教育活動を積極的に発信することで、社会に開かれ、地域に愛される学校づくりを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の発信・受信だけでなく、生徒が地域に出ていく活動や外部人材が来校して授業に関わるなど、地域との相互交流を一層進める。 ・学校ホームページの活用を推進するため、全教職員が教育活動の情報(内容・写真等)をICT推進課に提供し、情報を集約する。 ・学校ブログ等を活用して、タイムリーな情報発信を行い、広報活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が地域に関わる機会を増やす【地域連携・③⑬】 ・各部活動によるボランティア活動を、年1回以上実施【地域貢献・④⑮】 ・系列や専門分野での外部人材の活用推進【キャリア教育・⑩⑭】 ・「学習活動で地域との交流が行われている」と答えた生徒70%以上【地域交流・③④⑬】 ・学校ブログを週1回以上更新 ・各部活動・系列の活動状況や学校行事の様子を終了後1週間以内にホームページに掲載する ・「学校ホームページを見たことがある」と答えた生徒70%以上【学校理解・②⑥⑭】 	<p>各教科 各系列 各年次 部活動</p> <p>ICT推進 全 員</p>
カ	<p>業務の効率化・改善や行事の見直しを進め、教職員の適切なワークライフバランスを確保するとともに、安全・安心な教育環境の整備に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災対策と防災教育を全教職員で常に意識し、非常時における生徒の安全・安心を確保する。 ・業務の見える化を進め、支え合いながら効率的に業務を遂行できる職場環境を整える。 ・コミュニケーションを推進し、連携・協力によって安心して働ける組織づくりを進める。 ・休暇取得を促し、心身の健康を維持できる働き方を推進する。 ・定時退勤日(毎週月曜日)の実施と適正な退勤時間の徹底により、無理のない勤務環境を整える。 ・部活動ガイドラインに基づく運用を進め、負担軽減と働きやすさの向上を図る。 ・コンプライアンス意識を全教職員で共有し、不祥事の根絶を図る。 ・教職員としての自覚と誇りを育む職場づくりを進める。 ・全ての教育活動を支える前提で、効果的で適正な予算執行を進める。 ・全教職員が危機管理を意識し、施設・設備の維持・点検・保安の推進と事務室との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の防災訓練のうち、事前通知なしの訓練を実施【防災と安全・⑥⑯】 ・防災アンケートで「防災意識が高まった」と答える生徒80%以上【安全意識・⑧⑭】 ・学校警備及び防災計画の継続的な点検・改善 ・年1回の安全点検を実施 ・時間外在校等時間の出勤簿への正確な記入を徹底する ・時間外在校等時間：月45時間以内、年360時間以内(年間月平均35時間以内) ・夏季休暇の完全取得 ・定時退勤日を実施し、午後4時40分退勤励行し、平常日は午後8時完全退勤を徹底する(警備セット時間の年間平均を午後8時以前) ・部活動ガイドライン履行達成率80%以上 ・働きがい調査を4月と12月に実施し、平均点を0.5ポイント以上向上 ・コンプライアンス研修毎月1回実施 ・教職員の不祥事0 ・教員と事務職員の連絡を密にし、計画的に予算執行を行う ・校舎内外及び農場の日常的な清掃・点検・整備を徹底し、危険箇所の早期発見と改善に努め、施設に関する事故0 	<p>総務図書 管理職</p> <p>管理職 全 員</p> <p>管理職 全 員</p> <p>事務室 全 員</p>